

# 中高一貫で取り組む、教師と保護者のタッグを組んだ 情報モラル教育についての考察

吉田拓也 (樟蔭中学・高等学校)

## ◇問題意識

私の直面している教育現場では、生徒のコンピュータ利用のユーザ名やパスワードの管理不足、情報発信・収集などにおける著作権や肖像権を考えない行為がしばしばみられる。また、生徒個人が開設しているホームページにおいて、成りすましや誹謗中傷などの書き込みがあり、名誉毀損と考えられるケースもある。年々、生徒が生活指導部や情報科の教諭に、精神的被害や技術的な対処法について相談するケースが増加する一方である。

## ◇このような現状を踏まえて

私は道徳の時間に習う「日常生活におけるモラル」は、家庭や学校で培われ、特に家庭での教育がその中核をなすものだと考える。しかし、情報モラルと呼ばれるものの育成を考えたときに、現在の状況ではそれを家庭に委ねることはできにくい。生徒の保護者が育ってきた時代には、情報モラルという考え方がなかったからである。そういう意味でも学校での教育の意味や担う責任は大きいといえる。

## ◇本研究の目的

情報モラルの欠如によって生徒が被害者にも加害者にもならないように、保護者に来校してもらって授業を行い、生徒たちに身近で関わる教師と保護者が情報モラル教育に対して、基本知識の共通理解や信頼関係を構築して、情報モラル教育を推進していくことを目的とする。

## ◇研究方法

### ○研究方法

#### (A) アンケート調査

対 象：中学1年生 5クラス (計111名)  
          高校1年生 8クラス (計235名)

時 期：2009年7月～2009年9月

授 業 者：吉田拓也 船田智史

調 査：アンケート調査(PC・携帯電話におけるインターネット利用・情報モラルについての調査)

調査時期：2009年7月(高校1年生)・2009年9月(中学1年生)

#### (B) 情報モラル教室

対 象：中学生・高校生の保護者 32名

時 期：情報モラル教室・・・2009年11月～12月 (計3回)

授 業 者：吉田拓也 船田智史

## ◇情報モラルとは

情報モラルとは、「情報社会で適正な活動を行うためのもとになる考え方と態度」(高等学校学習指導要領解説、2000)と捉えられている。また、この育成とは、何々をしてはいけないというような対処的なルールを身に付けるだけでなく、それらのルールの意味を正しく理解し、新たな場面でも正しい行動が取れるような考え方と態度を育てることだと学習指導要領で記されている(高等学校学習指導要領解説、2000)。

## ◇実践概要について【Ⅰ】

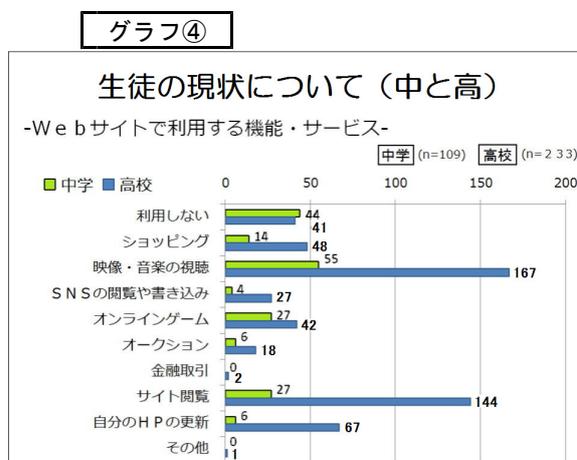
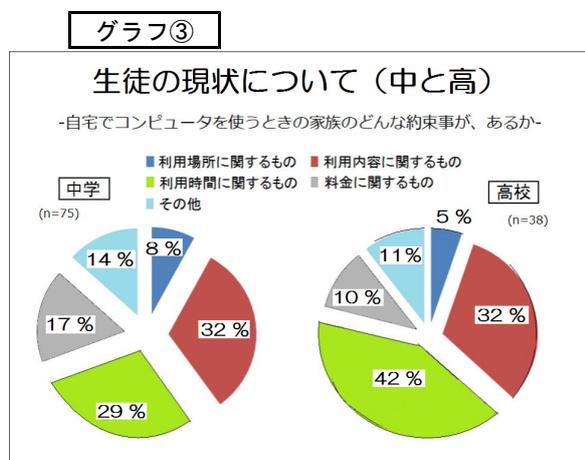
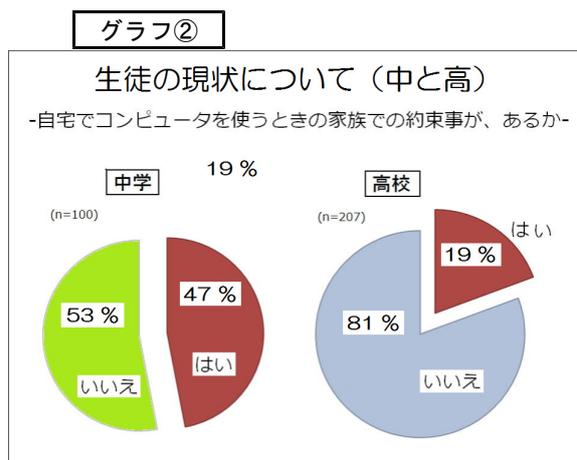
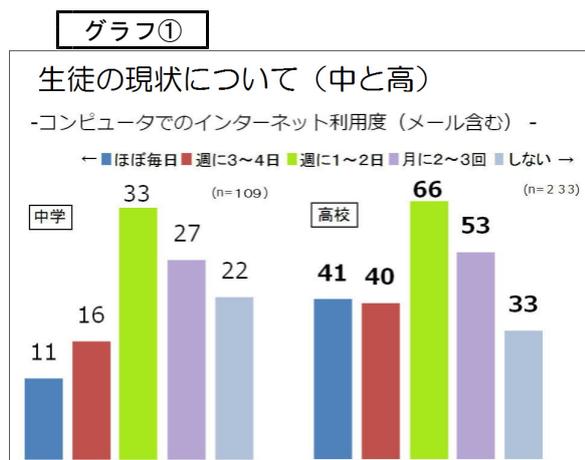
今年度、情報科が情報モラル教育として行ったものは次のとおりである。なかでも、(A) アンケート調査、(B) 保護者向け情報モラル教室が、本研究の対象となったものである。

月	情報モラル教育への取り組み	備考
4月	●情報科メール(4月号)の発行	情報科から全校生徒に毎月発行している教科だより。情報モラルの基本的知識や身近な事例や関連する時事問題などを紹介
5月	●情報科メール(5月号)の発行	
6月	●情報科メール(6月号)の発行 ●保護者へのアンケート調査実施 (学年集会後に実施)	「インターネット利用状況等の調査(PC・ケータイ)」について
7月	●(A) 高校生へアンケート調査 (8クラス:235名に実施) ●情報科メール(7月号)の発行 ●情報モラル講習会 (高校1年生学年集会時に実施) ●保護者へのアンケート調査 (保護者パソコン教室後に実施)	「PC・携帯電話におけるインターネット利用・情報モラル状況調査」について
9月	●(A) 中学生へアンケート調査 (5クラス:111名に実施) ●情報科メール(9月号)の発行	「PC・携帯電話におけるインターネット利用・情報モラル状況調査」について
10月	●情報科メール(10月号)の発行	情報科メールに、中高生に実施したアンケート調査についても紹介する。
11月	●情報科メール(11月号)の発行 ●(B) 保護者向け情報モラル教室① ●(B) 保護者向け情報モラル教室②	
12月	●情報科メール(12月号)の発行 ●(B) 保護者向け情報モラル教室③	
1月	●情報科メール(1月号)の発行	
2月	●情報科メール(2月号)の発行	

## ◇実践概要について【Ⅱ】

## (A) アンケート調査

- 対象者：中学1年生 5クラス (計111名)、 高校1年生 8クラス (計235名)
- 科目：中学生「技術」、高等学校「情報C」
- 調査内容：教育工学事典にある情報モラルに反するものから、高校生の現状に応じたバッテリーを考えアンケートを作成  
(属性) ●コンピュータ利用度・インターネット利用度  
●保護者のかかわり ●教育工学辞典による情報モラル項目



～グラフからの考察～

他にも多数のバッテリーをあげてアンケート調査を行ったなかで、特に注目すべきものを抽出する。なかでも、中学1年生では、コンピュータをほぼ利用しない人（利用しない、ほぼしない）が、45%、高校1年生でも、37%もいることがわかる。こちらの予想よりもはるかに低い数値であり、他の要因がある可能性がある。また、家庭の約束ごとに関しては、一目瞭然で中学1年生が、高い割合であるようだ。保護者の気持ちとしては、発達段階に応じた利用という差なのであろうか。具体的な約束ごとについては、利用内容、利用時間、料金に関するものの順である。さらに中学校・高等学校ともに、利用するサービスについて映像・音楽の視聴やサイト閲覧が上位を占めており、オンラインゲームも高い数値を出している。他には中学1年生と高校1年生では、ホームページについて大きな差異がみられる。

(B) 情報モラル教室

- 対象：中学生・高校生の保護者 32名（中学15名、高校17名）
- 時期：情報モラル教室・・・2009年11月～12月（計3回）
- 授業者：吉田拓也 船田智史
- 第1回 11/14（土）情報モラル教室（30分）  
～掲示板を体験してみよう～  
・うわさやデマ ・誹謗中傷 ・個人情報の暴露  
思ったことをすぐに投稿し、他の人と意見や情報を共有する掲示板について、その機能や受ける印象を体験する。
- 第2回 11/21（土）情報モラル教室（30分）  
～有害サイトを閲覧してみよう～  
・薬物サイト ・出会い系サイト ・一部の本校生の現状  
有害サイトがもたらす影響を考えるために実際のホームページを閲覧する。危ない

から利用禁止という発想ではなく、具体的な行動基準について、ご家庭でのフィルタリングソフトの導入や、子どもの情報モラル意識の育成について説明する。

●第3回 12/5（土）情報モラル教室（30分）

～本校生徒の現状を知りましょう～

・インターネット ・携帯電話 ・具体的な行動について

中学1年生と高校1年生を対象にとったアンケート集計をもとに説明を行う。インターネット・携帯電話の利用度や家庭での約束ごとの割合、インターネットを利用した問題行動をとった経験などを、グラフ化したもので分析して解説する。

●受講者からの感想—自由記述

- 個人情報の件、子ども達に話そうと思います。
- いつもありがとうございます。いろいろな知識が増えてうれしいです。
- 有害サイトをみて、怖いなと思いました。娘に言おうと思いました。フィルタリングサービスは活用しようと思います。
- こんなに簡単に有害サイトにつながるとは知らず、大変勉強になりました。子どもへのネットの使い方など家で話し合っていたらいいなと思いました。
- 危険だからといって頭ごなしに止めるのではなく、必要な情報を取り入れるための対策や方法がわかったのが、今回の情報モラル教室に参加してよかったと思います。
- 情報モラル教室では、今まで掲示板なんてやったことがなかったので、どんな感じのものなのか、わかってよかったと思いました。世間でいろいろな事件などが起きてしまうのもなんとなくわかるような気がします。
- 狭い家ですが、パソコンが親の目に触れないところにあった時は心配でした。現在は、リビングにパソコンを置いているので少し安心です。学校で指導されているので、本人も気をつけていることと思います。

◇取り組みの成果

タグを組むというのは、「協力する。連携して事にあたる」ということを意味する。今回の取り組みは、そのとおり、保護者と教師が情報モラル教育に対して、お互いに共通認識を持って連携するものである。その取り組みは、教師側から積極的に働きかけることによって、保護者との信頼関係を高めていくことにつながった。

アンケート調査によって、生徒の現状を知り、その結果を生徒・保護者に、教科日より（名称：情報科メール）を使って知らせたことは、情報モラル教育の第一歩であったと感じる。さらに、土曜日の午後を利用して、保護者対象の「情報モラル教室」を開き、保護者が実際にコンピュータに触り、有害サイトと感じている出会い系サイトやプロフ、携帯ホームページなどの存在や状況を目の当たりにした経験は、教師と保護者がお互いに問題把握や共通認識を行い、今後の継続的な指導に意義を感じることができた。このような世の中の動向や生徒のインターネット利用現状を伝えた取り組みは、保護者の自由記述の感想から興味・関心を大きく引き出したのではないかと成果を感じている。

◇今後の展望・課題

情報モラル教育は、情報科だけが行うことではなく、学校現場が一体となってその役割を担わなければならないものである。例えば、校務分掌の生活指導部と協力関係を持ち、学校生活全体に関わり指導にあたることも必要な条件だといえる。また、情報科では常に生徒の実態調査等を行い、それに応じた授業カリキュラムを展開する必要性も強く感じられた。

本校は、中高併せて約1300名の生徒がいる。全体からみれば、今回参加していただいた保護者はまだまだわずかである。しかし、今回参加した保護者が、現状のようなインターネットを介した凶悪事件が起こっていることを知り、我が子のために、何とか事件に巻き込まれない、また未然に防ぎたいと感じ、その保護者の周辺から口コミでこの活動が草の根的に広まっていけば、この活動を続けていく価値や意義が大きくあると思う。やはり、家庭での教育主体となる保護者と教師がタグ、いわゆる信頼関係を深めて、指導にあたらねば、現状を取り巻く生徒の情報モラルの改善は難度を極めてしまう。